

稲山会 通信

第 9 号

2003年12月1日発行

発行人：井村英明 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

現

現役の夏山合宿

今年の夏は久しぶりに現役として3パーティーにわけて北アルプス縦走を行った。新人が4名参加した。

立山～薬師～雲ノ平～槍ヶ岳～上高地

7月31日～8月8日 L佐々木、SL田中、山本（裕）、中村

予定通り槍まで縦走し、当初の計画では槍からキレットを越え穂高に入る予定であったが、台風のため槍沢を下った。

蝶ヶ岳～常念岳～槍ヶ岳～上高地

8月2日～8月8日 L山本（達）、SL武田、SL藤井、伊藤

槍で立山Pと合流し、槍沢経由で穂高に入る予定であったが、台風のため槍沢から上高地に下りた。

穂高岳（横尾～涸沢～北穂高岳）

8月10日～8月12日 L佐藤、森本、蘭田、高石

台風のため単独で涸沢に入り、北穂高岳に登った。高石は女性の新人。

現在の実働メンバーは約15名（新人6名～7名）で今後秋山縦走、冬の八ヶ岳等を計画している。OBの皆様のご指導を期待しております。

役

よ

現役幹事長より

7月25日、富士登山競走に参加して参りました。競技中は雨も降らず、おかげさまで無事に完走することが出来ました。

ゼッケン1502 佐々木 直之 山頂男子

富士吉田市役所前スタート：7時30分 馬返し：1時間04分30秒 五合目：1時間54分48秒 八合目：3時間15分26秒 山頂：3時間43分02秒 時刻：11時13分02秒（179位／2508人）

スタート後、浅間神社を通過して吉田口から登りました。「馬返し」～「山頂」の横に記されたのはスタートからの経過時間です。大変苦しいレースでしたが、去年の記録を6分上回ることができ満足しております。

なお、優勝タイムは2時間45分だそうです。自分はその時、まだ7合目を過ぎたあたりにおりました。どの世界にも「超人」がいらっしゃるんだな、と素直に感動いたしました。頂上では、当日登っておりました山の会のメンバーとも合流でき、大変いい思い出になりました。

（佐々木直之）

り

回想「2002年3月 Ecuador Andes」

Mt.Cayambe(1)懐昔

1964年7月 早大エクアドルアンデス隊で登った懐かしい赤道直下の山、カヤンベ山 (エクアドル・アンデス)

伴二女臨高峰赤道

2002年3月 大学WV部卒業直前の我が家の二女を伴い再び訪れた

不冒障害高度共幸

そして、幸い二人とも高山病らしき症状もなく山で過ごせた

馬上遥山懐 Andes

高度順応登山の後、高度順化を兼ねて馬を駆った

馬上如追黒 Toros(2)

荒野を駆け、4000 mの峠を越えること数日、あたりの野生牛を追うが如くであった

馬上到不思 Refugio(3)

そして、ジープを乗り継ぎ山小屋に入った

発夜半傾南十字星

南十字星が傾く夜半、ザイルを組む登山ガイドと共に登頂への道が始まった

多難道程氷河亀裂

温暖化がためか予想を超えて氷河は後退し、ズタズタに裂けたクレバスのルートに難航する

到頂上昇高陽碧空

そして、陽はすでに昇り切り、ぬける蒼空は眩しくも昼前には頂に立った

多疲困憊薄少 H₂O(4)

空気は薄く足重く立ち止まること多く、呼吸苦しく疲れ果てた

火傷顔面赤道陽光

灼熱の陽に顔は火傷のごとく爛れる

多鬚髭髯薄少白髪

そして、二度目の登頂の今、髪は薄く白く、ヒゲの多いはやはり38年を経た証であるか

時赴苦露臺咲白梅

彼の地へ発ったのは、梅白く咲き、ほろ苦い露の臺の芽が出始めていた頃であった

時還殘散桜春爛漫

また、わが家へ帰ると、春爛漫は終えたと告げる庭の桜は、幸い散り残っていた

蹲庭先暖土遊魚池

そして、庭にしゃがみ、春の日差しに泳ぐ池の魚を見ては、芽吹きを待つ温かき畑の土に触れた

注釈 (1) 1964 早大エクアドルアンデス隊初登攀 (2) 闘牛場に出される黒い牛

(3) 1981 避難小屋建立標高4600m (4) 地上の何割かの酸素量

(小林伸吉 S.39)

マッターホルン (4478 m) に登る

山の先輩達に刺激され、今年8月に私も還暦登山として、永年の夢であったマッターホルンに登りました。ルートはヘルンリ稜からであった。ガイド付きの場合、登る前に他の山でガイドによるテストでJ aを貰ってから登るわけである。ガイドの登るスピードについていくので、本番は予想以上に疲労した。ガイドは登山者の山頂に立ちたいとの意を汲んで、例えば強引な手段を講じて引っぱり上げるとの意志が強烈である。しかし途中で弱音をはいたり、中断の意志を示した場合、そこで終了するといった明確な割り切り方も持っている。登り方はルートに自分達が追い抜けるスペースがあれば追い越すことなど何とも思わないようで、それが認められているごとく振る舞っていた。国際社会でのこの論理が山登りでもまかり通っていることを思い知らされる一面でもある。

スピーディーに登るために装備は軽く、食料や飲み水なども最小限に抑え、休憩も殆どとらない。高低差1200 m、4時間半の行程中の休みは登攀装備の装着と点検のための休止程度で2回だった。登攀ルートが限定されているとはいえ、それに対応できる精神力と体力が要求される。この夏のヨーロッパは気温が高く、氷が解けだしているという異常気象のためマッターホルンでも登攀ルート脇の大岩石が崩落し、登山が一時禁止される事態が発生したが、さまざまな条件が上手くかみ合う幸運もあって山頂に立てたわけである。

(海野俊男 S.41)

気象部OB会乗鞍岳追悼登山

9月27日～28日

参加者：宮野、小久保夫妻、藤沢夫妻、東、恩田、金子弘、胡桃夫妻、竹内夫妻、青木、関、関根夫妻、笠原、梅崎、渡辺弘、金子治、松村、吉田、白倉、田野辺、井村、小島、菊池、栗又（幹事）

気象部OB会は第4回になりますが、中村郷土君が遭難して40年が過ぎ、追悼を乗鞍岳で行いました。気象部以外からも7名が加わり、28名が参加しました。

27日朝8時に新宿をバスで出発し、奈良井宿～野麦峠を經由して午後鈴蘭小屋に到着。白濁の温泉に浸かり、夜は懇親を深めました。28日朝9時頃に遭難地点直下に着き、ケルンを積んで献杯と黙祷のあと「もしかある日」を全員で歌い、涙あふれるものがありました。40年の胸の「つかえ」が取れた気がしました。その後登頂パーティー17名は宮野リーダーで剣ヶ峰（3026m）に登頂。爽やかな陽が降り注ぎ、御岳、穂高、槍が雲の合間から望まれました。その後宿でもう一度露天風呂につかり、バスで関越道経由で帰京した。なお郷土さんのお弟さんご夫妻からご丁寧なお心遣いを頂戴しました。

S 39年卒の十日町・苗場山

卒業以来、忘年会・新年会と家族ぐるみの山行、旅行と年2回の行事を持ってきました。今回は滝沢先輩（十日町市長）を十日町に訪ね、苗場山に登りました。参加者は滝沢先輩を含めて15名の参加となりました。

7月24日に各地から十日町市長室に集合し、懇談の後に十日町博物館を説明付きで見学した後に宿舎に入り、露天風呂の後宴会。滝沢先輩も駆けつけてくれて盛大でした。十日町小唄の合唱と盛り上がりしました。25日は小赤沢3合目から雨の中を苗場山に登り、午後山頂ヒュッテに到着、滝沢先輩差し入れのビールでまた乾杯。26日は和田小屋ルートP（秤、真下、岡崎、宮内、中込、中込氏子息）は今日も雨の中を神楽峯に登り、お昼前に和田小屋に到着。下界は薄日が差ししてきた。またビールで乾杯し解散。赤湯・平標・谷川ルートP（松本、飯泉、井上）は赤湯に下る道が雨でぬかるんで滑りやすかったが、午後赤湯に着き、野趣に富んだ露天風呂を満喫した。赤湯の主人は笠原OBの父の教え子とか。27日赤湯から平標山に向かう。日曜なので約600人の登山者があった。28日、やっと見えた青空のもと、仙の倉山、万太郎山と縦走して谷川岳オキノ耳から天神平に下山。静かな山で花を充分楽しんだ。小赤沢ルートP（小林夫妻）は車を置いてある小赤沢3合目に下山。切明の露天風呂でさっぱりし、小布施、須坂から赤倉高原ホテル泊。その後車で笹ヶ峰から雨飾の小谷村露天風呂を楽しんだ後、白馬に寄ったりしながら浜松に帰った。

S 40年同期の雪山山行

中ア木曽駒ヶ岳、宝剣岳

田野辺、保屋野、斉藤（洋）、井村。12月22日のクリスマス休暇に千畳敷ホテルで忘年会を兼ね天候が良ければ登ろうと4人が集まった。飲み過ぎたが翌朝は快晴で、雪崩のある夏道はずし和合山にダイレクトに傾斜のある雪斜面を登る。稜線上は風が強かったが木曽駒ヶ岳、宝剣岳に登った。雪の南アが全山望まれ冬山を満喫。

金峰山、瑞牆山

1月18日～19日 斉藤（洋）、保屋野、井村、他2名。天候に恵まれ2峰に登った。

八ヶ岳赤岳

3月21日から斉藤（洋）、井村、他1名。斉藤の友人を案内して地藏尾根から赤岳に登った。今年には風もなく穏やかな冬山。

北ア唐松岳～五竜岳～遠見尾根

保屋野、斉藤（洋）、井村、他2名。4月27日に八方尾根から唐松に登り、五竜まで縦走し雪の遠見尾根を下った。白岳の斜面はアイゼンが良く効いた。鹿島槍北壁の眺めが素晴らしかった。

S 41 年卒同期会

41 年（40 年度）卒業の同期は、6 月 28 日～29 日に八ヶ岳大泉の「チロリアン」で同期会を開催しました。10 名参加し、2 日目に全員で入笠山に登った。卒業後、会することがないまよりタイアが間もない昨年に至って、旧交を温めようではないかと同期会を始めました。その後定期的に開催することになり幹事持ち回りとして今回 3 回目を開催した。全員参加に至らなかったのは残念でしたが、10 名の多くが集まり大いに旧交を温めることができました。

参加者：杉村、小田、宮尾、秋野、小島、金子、稲吉、斉藤、沼田、渡辺（記）の 10 名。

※お寄せいただいた原稿は編集の都合上、多少の変更をしている場合があります。ご了承下さい。

山とスキーの会

第 1 回のスキーの会が始まり、本年度で 12 年になりました。次回は白馬岩岳スキー場に行くことになっています。友人、知人、家族、どなたでも参加できます。白銀の世界は山にしろスキーにしろ素晴らしいものですね。アフター 5 は酒ありカラオケありマジックありと、また楽しからずや。参加申し込みは市村、大国まで。

役員会概略報告と今後の方針

代表：市村、副代表：井村（遭対）、大国、卯月（IT）、早川（遭対）、松村（企画）、関根（会計）、鈴木明（現役）、渡辺征（現役）、名達（総務）

現在この 10 名の幹事で各担当を決め運営している。最近の主な業務は次の通り。

- 1) 昨年 6 月に 45 周年パーティーの開催と今後 50 周年記念行事の準備。
- 2) 現役学生との再建と技術的アドバイス、資金的援助を行っている。濱田会長（理工学部教授・41 年卒業気象部 OB）が全面的に支援してくれているお陰で、現在新学生会館に部室を持っている。
- 3) 会費納入の促進のお願いをしている。一時役員会の活動も休止していたので、財政的に立て直しを計っている。遭難対策基金も積み立てている。
- 4) 稲門山の会通信の発行を原則年 2 回行って会員に郵送している。
- 5) 稲門山の会の名簿の発行。原則 5 年毎に発行予定。
- 6) 会員の連絡強化に年代の縦軸と横軸の連携が重要なので、再度組織化する予定。
- 7) 今後は行事、イベントを企画してゆく予定である。
- 8) その他の必要な事項の検討と推進を行う。

お願い

* 年会費 6000 円の納入をよろしくお願いいたします。

* 振込先 みずほ銀行 沼袋支店 普通預金 1 2 1 8 2 3 6

稲門山の会 幹事 関根聡一郎 セネツウイロウ

郵便局 記号 1 0 1 6 0 番号 5 1 3 0 7 1 5 1

名前 稲門山の会 代表者 関根聡一郎

住所 中野区沼袋 2 丁目 5 番 12 号

※経理からのお願い…事務処理の都合上、ご送金の手続きの際に、ご本人の名前の前に会員番号（会員名簿にある番号）または卒業年度を入れるようにして下さい。お願いいたします。